

焼岳の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

12月4日20時頃から山頂の東約2km付近で海面下約3kmとやや深いところを震源とする地震が増加し、多い状態が継続しています。

山頂付近の浅い場所で発生する低周波地震や火山性微動は観測されていません。また、地殻変動に特段の変化はありません。

この地震に関連して浅部の火山活動の活発化を示す現象は認められていません。今後の活動の推移に注意してください。

【防災上の警戒事項】

山頂付近では噴気や火山ガスの噴出に注意してください。

登山する際はヘルメットを持参するなどの安全対策をしてください。

活動概況

12月4日20時頃から、山頂の東約2km付近で海面下約3kmとやや深いところを震源とする地震活動が活発化しています。なお、地震の数が非常に多いため、やや振幅の大きな(南峰南東観測点で30 $\mu\text{m/s}$ 以上)地震のみを計数しており、20時から21時までの1時間に28回(速報値)発生しており、21時以降も多い状態です。

11月22日から活発化した山頂の北西1kmから2km付近の地震活動は徐々に低下しながら継続しています。

山頂付近の浅い場所で発生する低周波地震や火山性微動は観測されておらず、震源の浅い場所へ移動は認められていません。また傾斜計による観測でも山頂方向の隆起は認められません。噴煙の状況は雲のため不明です。

以上のことから、この地震に関連して浅部の火山活動の活発化を示す現象は認められていません。

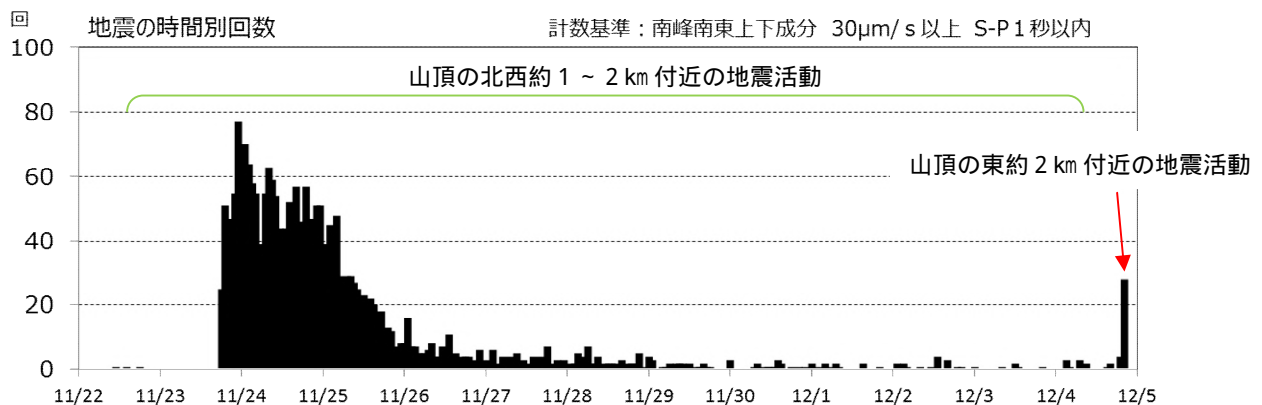
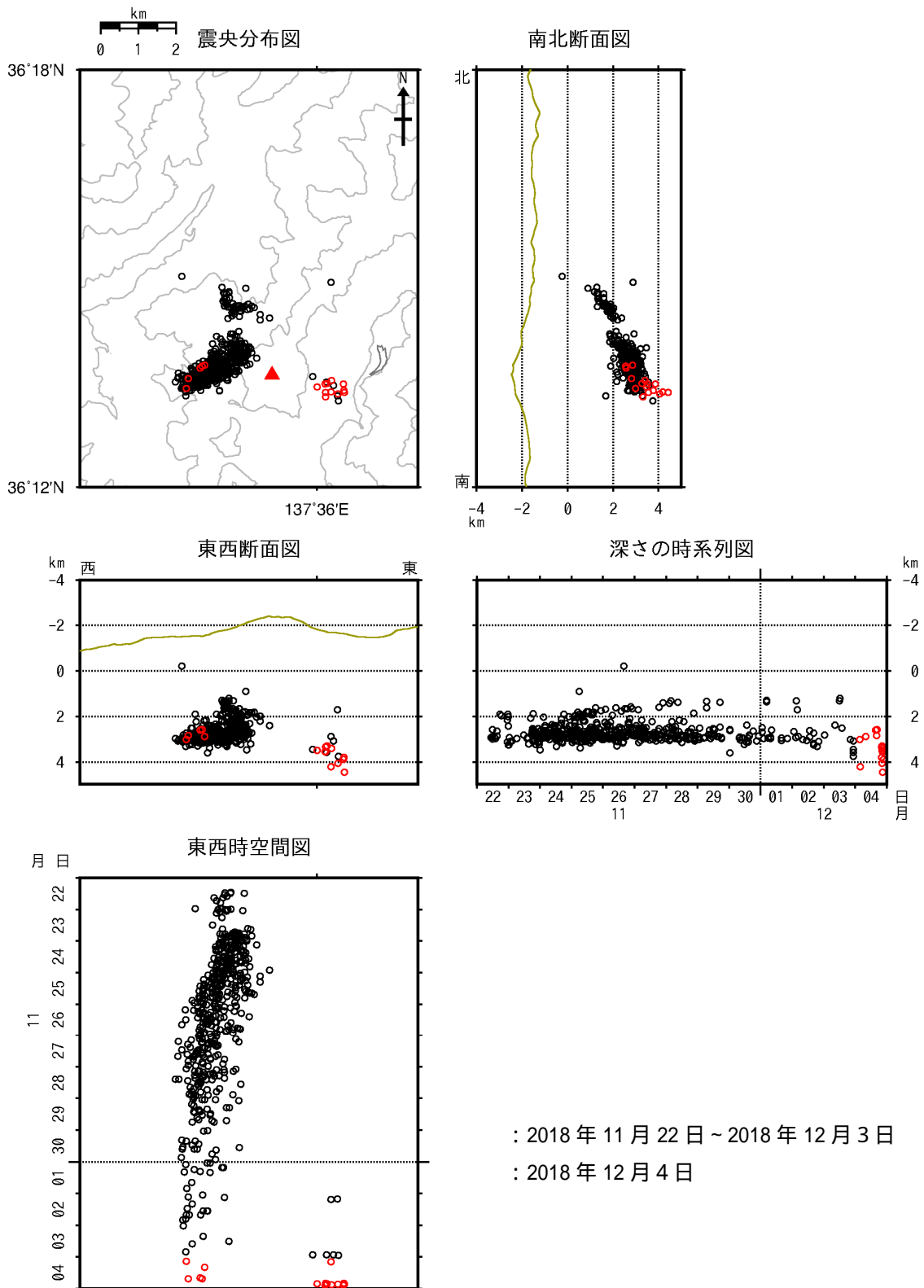


図1 焼岳 やや振幅の大きな地震の時間別回数(2018年11月22日～12月4日21時)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧できます。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号 平 29 情使、第 798 号)。



： 2018 年 11 月 22 日 ~ 2018 年 12 月 3 日
： 2018 年 12 月 4 日

図 2 焼岳 震源分布図 (2018 年 11 月 22 日 ~ 12 月 4 日 21 時)
4 日 20 時頃から山頂の東約 2 km 付近で海面下約 3 km を震源とする地震活動が活発化しています。

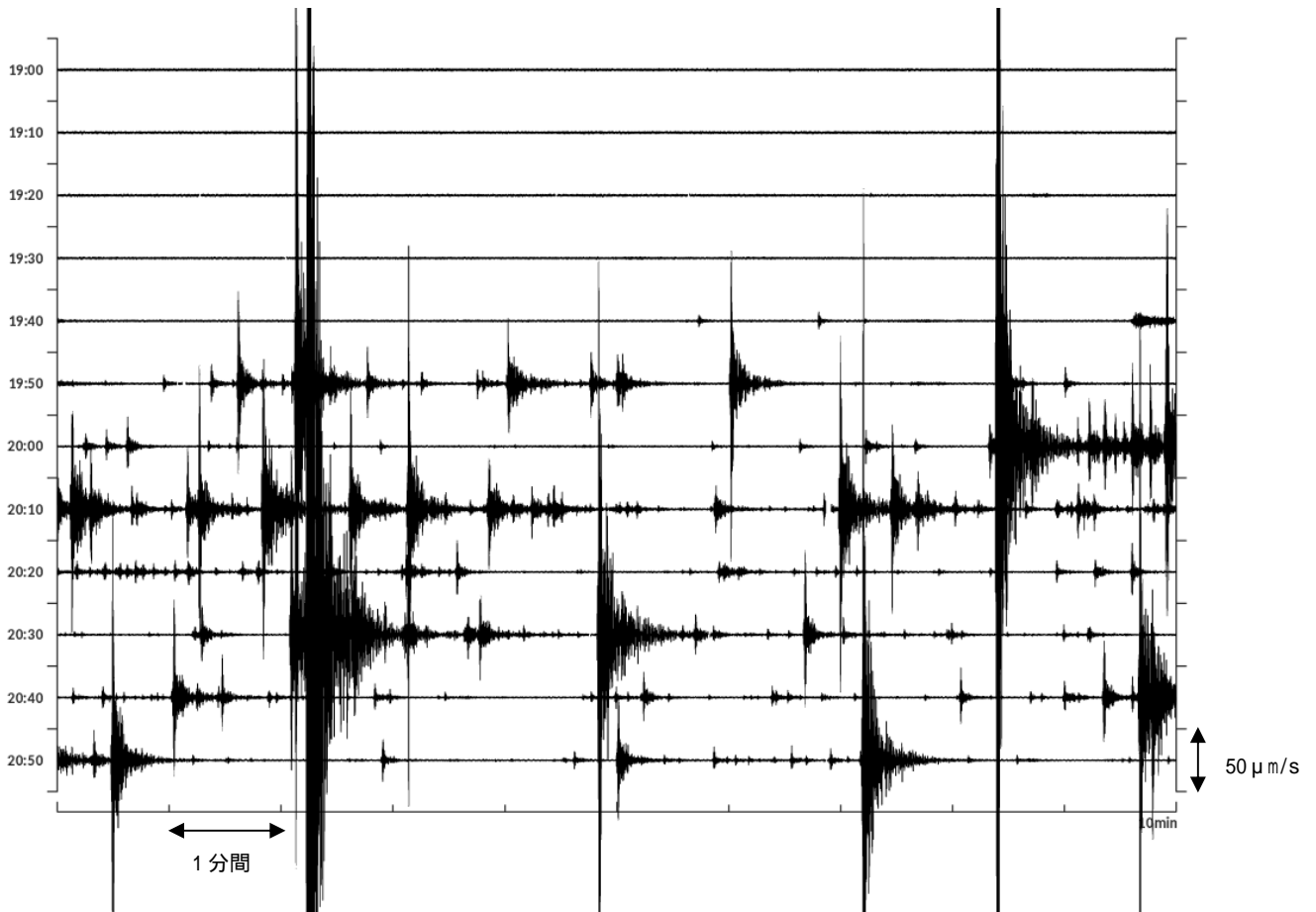


図3 焼岳 地震の発生状況 (2018年12月4日19時~21時、南峰南東観測点上下動)

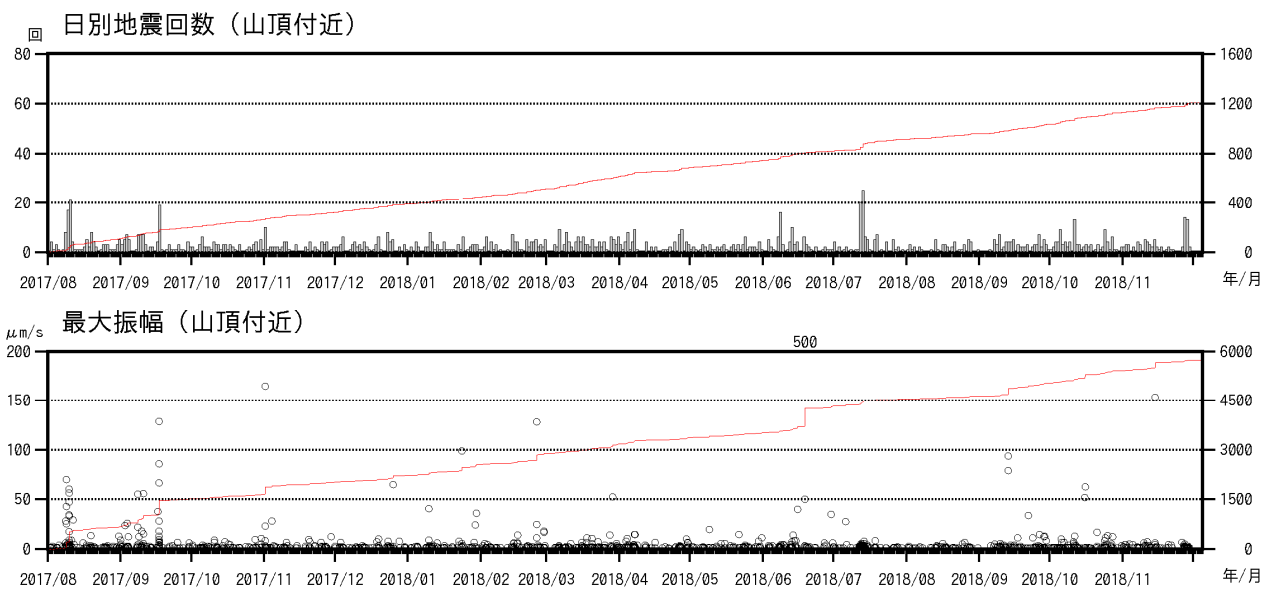


図4 焼岳 山頂付近で発生した地震の回数と振幅 (2017年8月1日~2018年12月4日21時)
山頂付近の地震活動に特段の変化はありません。

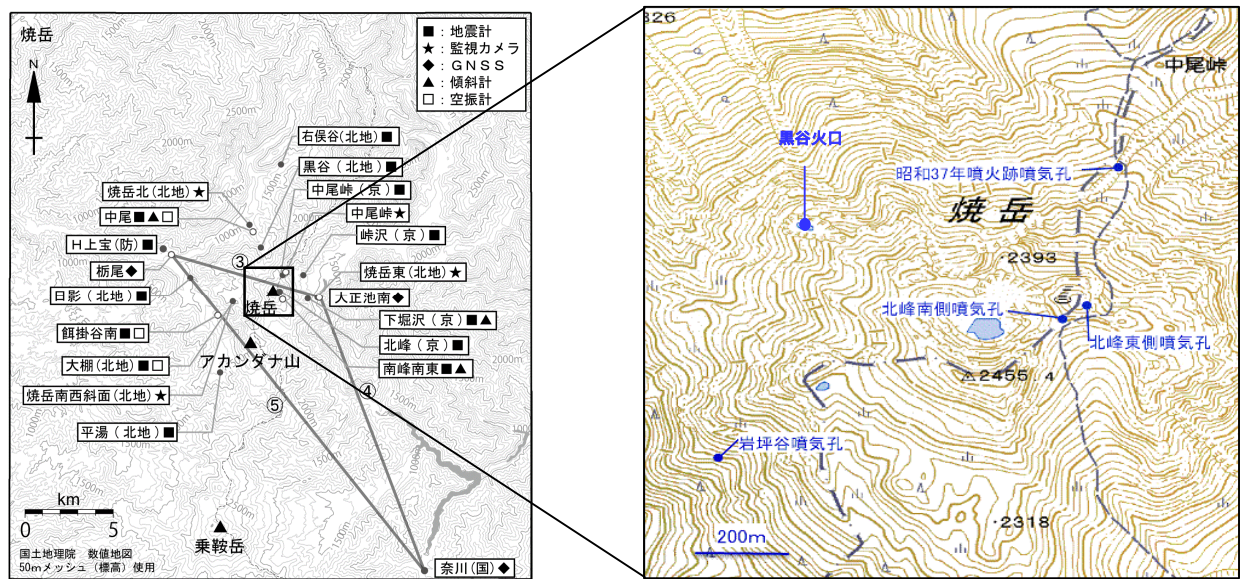


図 5 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置